

町村週報

(町村の購読料は会費
の中に含まれております)

2542号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955

発行人 谷合靖夫：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

<http://www.zck.or.jp>



全国町村長大会ひらく

全国町村長大会は、11月30日、東京・渋谷のNHKホールで、全国から参集した町村長と町村関係者等約2,800名が出席して開催された。

今回の大会は、特に重要な案件である町村財政基盤の強化と地方分権の推進に重きをおき、三位一体改革における「3兆円規模の税源移譲」「税源移譲の際の地方交付税による確実な財源措置」「地方交付税の機能堅持と所要額の確保」などを緊急重点決議として掲げた。大会終了後には、決議事項実現のため、地元選出の国会議員を中心に要請活動を展開した。

また、参加者全員に「地方分権の確立と町村行財政基盤の強化をはかり、住民一人ひとりが誇りと愛着を持ち、生きがいを実感できる魅力ある町村の実現を目指して」と題する提言書を配付し、町村のおかれている現状と将来展望について全国町村会の主張をPRした。

全国町村長大会

魅力ある町村の実現を目指して

全国町村会は、11月30日、正午から東京・渋谷のNHKホールで全国1394の町村長と都道府県町村会関係者及び小泉純一郎内閣総理大臣、河野洋平衆議院議長、参議院議長代理・角田義一参議院副議長、竹中平蔵総務大臣など、関係者約2800人が出席して開催された。

大会は、小川伊七(埼玉県杉戸町長)、芹澤伸行(静岡県函南町長)、宮城篤実(沖縄県嘉手納町長)の各氏の司会で進められ、はじめに山本文男



会長(福岡県添田町長)があいさつに立ち、「町村に山積する課題を乗り越えなければ、新しい時代の地域を作ることはできない。我々は、これからの力を合わせ住民が生きがいを実感できる魅力ある町村の実現に向けて全力を傾注していこう。」と全国から参集した町村長に呼びかけた。続いて大会の意義を明らかにするため、石原 副会長(香川県三木町長)が「我々町村長は、分権改革の速やかな実現に全力を挙げ、魅力ある

町村の実現に向けて邁進することを誓う。」と宣言を朗読、満場の拍手で採択、決定された。

この後、来賓あいさつに移り、小泉内閣総理大臣は「町村長の皆さんの行財政全般にわたる努力によって、自らの町村を自らが魅力あるものにしていくことができるよう、地方分権改革を進めていきたい。」と述べた。ここで山本

の實現に向けたご努力に敬意を表して万歳を三唱したい」旨の提案があり、山本会長の発声で万歳を三唱、その返礼に小泉総理の発声で全国の町村長の一層の発展を祈念して万歳が三唱された。

続いて河野衆議院議長、角田参議院副議長、竹中総務大臣、川股全国町村議会議長会会長がそれぞれあいさつ。また臨席した中馬弘毅行政・規制改革担当大臣はじめ、衆参両院の国會議員254名(代理を含む)を来賓に迎え、本人出席者を紹介した。

ここで大会議長団に寺島光一郎(北海道乙部町長)、今井理一(福井県高浜町長)、服部忠行(三重県菟野町長)、本田恭一(鳥根県斐川町長)、白石勝也(愛媛県松前町長)の5氏を選出し、議事に入った。

最後に魚津龍一副会長(富山県朝日町長)が閉会のあいさつを述べ、副会長の発声で「全国町村長大会万歳」を三唱。1時15分に閉会した。

「町村長の皆さんの行財政全般にわたる努力によって、自らの町村を自らが魅力あるものにしていくことができるよう、地方分権改革を進めていきたい。」と述べた。ここで山本

議案について、町村行財政をめぐる諸問題のうち、大会運営委員会が決定した「町村が自主的・自立的な施策を展開できる地方分権の推進」など9項目の決議案を付議、鹿野文永行政部会長(宮城県鹿島台町長)、宮本正則財政部会長(長崎県鷹島町長)、山岡治喜経済農林部会長(岡山県矢掛町長)が朗読し、採択された。

引続き、特に重要な案件である三位一体改革における「3兆円規模の税源移譲」税源移譲の際の地方交付税による確実な財源措置」地方交

道関係者の理解と協力を求めた。

諸課題を乗り越え新しい時代の町村を



会長あいさつ

全国町村会長 山本文男

本日ここに、全国町村長大会を開催致しましたところ、小泉内閣総理大臣、河野衆議院議長、扇参議院議長代理角田副議長、竹中総務大臣、川股全国町村議会議長会会長、並びに国会議員の諸先生方におかれましては、政局極めてご多端の折、ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。また、全国の町村長各位には、本大会のため遠路ご参集をいただき、心から感謝を申し上げます。

昨年の大会時には、全国で2220の町村がございました。今は1394町村であり、来年3月末日には1044町村になると見込まれております。市町村合併が如何に急速に進んでいるかを実感いたします。

合併問題は、私ども町村長にとって、極めて重い課題であり、このような事態に至っているのも、多くの町村長が地域の将来を真剣に考え、合併するか、単独で行くかを悩みに悩み抜いた上で決めた結果に他ならないと考えます。

「合併は最大の行政改革である」と言われており、そのことを否定するものではありませんが、合併を進めるに当たって、国は、再三再四「合併は地方分権の受け皿づくりであり、地方分権を進めるためだ」と言われてきました。

それにしては、合併の進捗の早さに比べ、分権改革の歩みの何と遅いことか。私は合併に関し、関係する多くの方々になされた苦渋の決断を無にしないために

も、是非とも地方分権を前進させていかなければならないと考えます。

いわゆる三位一体の改革も、このような地方分権の推進を目指すための改革であります。

全国町村会は、地方六団体の一員として、昨年8月と本年7月の二度に亘り、政府の要請に真摯にこたえて、「国庫補助負担金の改革案」をとりまとめ、政府に提出しております。昨年の政府・与党合意でその一部は実現をみておりますが、多くの課題が本年度に先送りされております。

私はこれまで、「国と地方の協議の場等を通じ、地方案に沿った改革が実現できるように精一杯努力してきたつもりであります。本日、現在、政府・与党におかれては、最終的な決着に向けて、詰め詰めの協議が行われていると聞いております。

ただ、既に新聞等でも報ぜられている通り、その大筋については、政府としての考え方は固まっていると承知しております。

その中で、例えば、義務教育国庫負担金改革について、地方案にある中学校教職員給与の一般財源化ではなく、小・中学校を通じた国庫負担率の引き下げで対応するといったことは、地方分権を進める観点から見ても極めて不満であります。

また、私自身、中央教育審議会の委員

として長時間の審議に参加してきたこともあり、極めて残念に思っております。

しかしながら、永年の課題であった税源移譲が3兆円の規模で実現できる目途が立ったこと、生活保護費負担金が対象から外されたこと、これまで国がたくなに拒んできた施設整備費の一部が税源移譲の対象とされていること等は、大きな前進であると受け止めております。

ここに至るまで、いろいろな機会に示された、すさまじいまでの中央省庁の権限への執着を考えると、このような成果が得られたことは、本日ご臨席を賜っている小泉総理が、常に「地方の意見を尊重する」と言われ、リーダーシップを発揮していただいたことに負うところが大きいと考えております。また、歴代の総務大臣にもいろいろご尽力いただいた結果と考えております。

確かに不満な点は、多々残っておりますが、三位一体の改革は、来年度までの改革で終わるわけではありません。町村が自己決定、自己責任に基づき、多様な個性豊かな地域づくりを行えるようになるためには、19年度以降も引き続き、更なる改革を推進していくことが重要と考えます。

私も、帽子に掲げたスローガンにあるように、「地方分権を推進し」、「町村財政基盤の充実強化」を目指し、今後とも一致団結して粘り強く活動を展開していくことではありませんか。

町村の数は減少しようとも、全国の町村は依然として農山漁村地域の大きな部分を占めております。

そして、農山漁村地域は、国土の保全、食料の供給等様々な公益的機能を果たしてきており、その役割を今後とも果たし続けていけるようにしなければなりません。

本年もまた、こうした町村の想いを広く各界各層の皆様へ訴えるために、「町村からの提言」という冊子を作成しました。そこには、厳しい財政状況にあり、しかも過疎化、少子化がより進んでいる町村において、行財政改革や少子化対策等に懸命に取り組んでいる事例の一端も紹介しております。

そこにもあるように、町村は、現在山積するいろいろな課題を抱えております。しかしながら、これを乗り越えて行かなければ、真の意味での新しい時代の町村を、あるいは地域を作ることは出来ません。

我々町村長は、これからも力を合わせ、住民一人ひとりが誇りと愛着を持ち、生きがいを実感できる町村の実現に向けて、全力を傾注していくことではありませんか。

本大会が所期の成果を収めることができよう、ご参集の皆様方の格別のご協力をお願いして、私の「ごあいさつ」といたします。

改革を続行して日本に活力を

来賓あいさつ



内閣総理大臣 小泉 純一郎

先ほど山本会長から挨拶がありましたとおり、永年の懸案でありました三位一体の改革、いわゆる補助金、税源移譲、交付税、どれをとっても難しい改革ですが、できるだけ地方にできることは地方にとり改革を進めていこうという、そのような改革の問題につきまして政府側と地方側との協議を精力的に重ねて参りました。

この協議もようやく最終段階になり、ひとつの結論が出るようになって参りました。この改革につきましては、山本会長をはじめ地方の皆様方に、自分たちの町村は自分たちで魅力あるものにしていくんだという意欲が、さらに加速されるようなものとなるよう、私も期待しております。

いま各地域におきまして、それぞれ特色ある行政なり、地域振興策なりが展開されております。もとより私が総理大臣に就任して以来、「稚内から石垣まで、それぞれ魅力ある所があるはずだ、東京や大阪だけではない」また、「都市と農村とは対立するものではないはずだ」と訴えて参りました。

地方のタウンミーティングにおきましても、田舎という言葉に対して「自分たちは一流の田舎になりたい」という発言があつたくらい、これからは田舎という言葉を卑下する必要はないんです。むしろ都会にはない田舎の良さがあるんで

真の分権型社会の実現に向け努力を



来賓あいさつ

衆議院議長 河野 洋平

地方分権一括法の施行以来、自治体の合併が進められてきた。町村の数は今日では1400弱にまで減少したという報告を聞いております。そのよな中で依然として、町として、あるいは村として地方自治の発展と住民の福祉向上のために不断の努力を続けておられるご出席の町村長の皆様に対して、まずは心から敬意を表します。

地方分権の推進により、国と都道府県は対等・協力という関係に立つことになりました。そしてさらにこれからは地方自治体同士の関係がそういう関係になっていくように思います。それは、県などの関与が縮小する一方で、町村に決定の責任と権限とが所在することとなって、皆様の判断と責任のもとに、これまでの横並びの地方自治から、それぞれの自治体がアイデンティティを競い、改革の断行を競い、住民のニーズに応えることを競争する時代へと変化していくわけであります。

いわゆる三位一体の改革は、補助金の削減と税源移譲について、政府・与党間で協議が続けられてきて大筋合意したところがございます。今後は地方自治体の側の責務が重大になって参ります。真の地方分権が実現するか否かは、実に皆様の手にかかっております。

国会といたしましても、地方の活性化の諸問題に対しまして、総務委員会などで議論を積み重ね、真の分権型社会の確立に向けて、今後とも努力して参る所存であります。ご列席の町村長の皆様方は、住民の声が直接届く、住民に最も近い町村の代弁者であります。住民が誇りと愛着を帯びて、なごりある活力と魅力ある地域社会を実現するために、なお一層のご尽力をお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

新たな時代の地方自治の確立を



来賓あいさつ

参議院議長代理 角田 義一
参議院副議長

本日ご列席の皆様には、地域の生活に密着した最も身近な自治体である町村におきまして、行政の最高責任者として町村合併の推進はもとより、地域住民ならびに地域の発展のために日夜ご尽力頂いております。皆様方の日頃のご努力に対し、まずもって心から敬意を表する次第であります。

今日の地域社会を取り巻く状況は、過疎化、少子高齢化の進展など解決が急がれる課題が山積しております。これらの課題に適切に対応していくため、地方が自らの裁量と責任で政策を決定する分権型社会の確立が求められております。これに向けて政府はいわゆる「三位一体の改革」などと称して地方行財政改革を進めてはおりますが、果たして地方の皆さんの意向は、十分に尊重されているではありませんか。私から見ると必ずしも十分ではないように思われます。

いかなる地域であれ、そこに人間の息吹がある以上、人間の尊厳を確立するために権限と財源を地方に対し、明確に誰にでも分かるような形で移譲すべきだと私は考えます。これによって初めて個性と活力のある町村を確立できるのではないのでしょうか。

国政の一翼を担う参議院といたしましても皆様のご議論をしっかりと受け止め、新たな時代に対応した地方分権の推進と地方自治確立のために引き続き一層の努力を続けたいと思います。

結びに、魅力ある活力に満ちた地域社会の創造と住民の福祉に向けて、今後とも皆様のより一層のご尽力を念願いたしますとともに、本日の大会のご成功と全国町村会の一層のご発展、そしてご列席の町村長の皆様方のますますのご活躍とご健勝を心からご祈念申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

地方の自立を確立するための改革を



来賓あいさつ

総務大臣 竹中 平蔵

今年も自然災害が多発し、特に台風第14号では多くの方が犠牲になられました。被害に遭われた方々に対して心からお見舞いを申し上げます。

さて、全国で市町村合併の取組は着実に進展して参りました。関係市町村の真摯なお取組に心から敬意を表しますとともに、合併後の市町村の今後のご発展を祈念申し上げます。

合併新法の下でも引き続き合併の推進に取り組んでいる所でございまして、基本指針を5月末に告示いたしました。また、8月末には「新市町村合併支援プラン」を決定した所でございます。今後も政府を上げてこの市町村合併を支援して参ります。

三位一体の改革につきましては、「地方でできることは地方で」との方針のもと、「国と地方の協議の場」などを通じて地方の意見を真摯に受け止め、3兆円の税源移譲を確実に実施すべく取り組んで参りました。本日夕刻、三位一体改革についての政府・与党合意をとりまとめることとしております。その内容は、地方の尊重という点で、個々の問題は確かに残っているかとは存じますが、基本的には地方から大きな反対の声が上がった生活保護費を対象に含めなかったこと、そして、建設国債対象の経費である施設費について、地方案を配慮して初めて税源移譲の対象にしたことなど、こうした点について、何卒、皆様のご理解を賜り



たいと存じます。

地方分権に向けた改革に終わりはありません。今後ともこれまでの改革の成果を踏まえつつ、真に地方の自立と責任を確立するための取組を強力に進めて参ります。

地方分権の流れの一方で、地方公務員給与への批判等々もございます。総務省においては、本年3月に「新地方行革指針」を策定しまして、平成17年度中の集中改革プランの公表など積極的な取組を要請している所でございます。地方におかれましては、一部に残る不適切な所につきましては、正すべき所は正し、一層の地方行革に取り組んで頂くようお願いを申し上げます。

昨年来、豪雨、台風、地震などの大規模災害が続発する中で、国民の安心、安全を確保することは、政府の基本的な責務でございます。今年8月には消防庁に国民保護防災部を設置いたしました、引き続き消防防災体制の強化をして参る所存であります。

いずれにしましても今年三位一体改革の総仕上げなど、今後の地方分権の流れを決定づける大変重要な年になると思っております。

総務省としても地方自治体の意向を十分に尊重し、ともに分権改革を進めていく覚悟でございます。最前線でご活躍の皆様の一層のご奮闘を祈念してご挨拶とさせていただきます。

連携を密にして諸課題に対応



来賓あいさつ

全国町村議会議長会会長 川 股 博

本日ここに、全国町村長大会がかくも盛大に開催されるに当り、全国の町村議会議長を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、本日ご出席の町村長の皆様には、平素、町村行政の中核にあつて、住民福祉の向上と地域の発展のため、日夜献身的なご努力と情熱を傾けておられますことに、心から敬意と感謝を申し上げます次第であります。

また、日頃から我々全国町村議会議長会に対し格別のご理解とご協力を賜っておりますことに対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、私も全国町村議会議長会は、去る11月24日、「第49回町村議会議長全国大会」を開催し、「真の分権型社会の創造をめざして」をメインスローガンに、今こそ、私どもの悲願である地方税財源の地方分権の推進を町村から国に発信するとの気概を持って、三位一体の改革の実現に向け全力で邁進していく旨、高らかに宣言したところであります。その際、この三位一体改革に関連して、「地方の改革案の実現」についての特別決議を満場一致で採択いたしました次第であります。

私どもの大会には、山本会長に来賓としてご臨席賜り、「ともに一致団結して、全町村の未来のために、さまざまな困難に立ち向かっていこう」といった趣旨の

力強いご挨拶をいただきました。
この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、本年も残すところ一ヶ月となりましたが、我々町村にとりまして、大変厳しい年となりました。

「平成の大合併」は、我々の同胞であった多くの町村において、住民や議会、あるいは近隣市町村の間に大きな混乱と深い亀裂を残しながら、苦渋の決断を迫られました。

私も、これまでも、納得のいかなる合併には断固応じられないとして、全国町村会と連携しながら、国に対し、何度も「強制的合併反対」の要請をして参りました。

今後も、如何なる形であれ、国や都道府県が強制的に合併を推進するようなことは決してあつてはなりません。

自立を選択した町村に対して合併を強制したり、合併を行わないことを理由に不利益な取り扱いをするということは、国民の意思として確実に尊重されるべきであります。

次に、町村の税財源についてであります。ご案内のように、昨年度の地方交付税が2兆9千億円も削減された後、平成18年度までは、この総額は維持される見込みとなっております。

しかしながら、全国の自治体、特に町村は、最大限の経費節減のみならず、財

政調整基金の取り崩しなどの対応に迫られ、大変苦しい予算編成を余儀なくされていることに変わりはありません。

加えて、深刻な町村の少子高齢化の中で、いかにして地域の活性化に取り組んでいけばいいのか、重要な課題となっております。

元来な地域社会を育むためには、これからは全国一律ではなく、それぞれの地域がその実情に応じて主体的に政策を実施しうる体制作りが急務であります。

「三位一体の改革」は、まさしく地方が自らの責任において政策を決定しうる改革であり、なんとしても実現しなければならぬ、この固い決意を持って、我々地方六団体は最後まで結束を強めて参ります。

山本会長の強いリーダーシップと本日お集まりの皆様方全員の力の結集により、全国町村会の声が国政にしっかりと反映されることを願ってやみません。

私も、皆様方とさらに連携を密にしながら町村が抱える諸課題に適時適切に対応して参りたいと考えております。何卒宜しくお願い申し上げます。

最後に、本日の大会を、皆様方の結束をさらに強固にし、町村の明日を切り拓くための第一歩とされんことを心からご期待申し上げ、併せてご参集の皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。



町 村 週 報

全国町村長大会来賓氏名

全国町村長大会には、次の国会議員（来賓あいさつをされた大臣等を除く）の先生方が来賓としてご出席下さいました。衆・参両院議員は二五四名（本人出席者九七名）衆議院議員五八名・参議院議員三九名、代理出席者一五七名。衆議院議員一一一名・参議院議員四六名）でした。来賓の方々のお名前は次のとおりです。（敬称略・順不同）

本人出席者

（衆議院議員）

（五八名）

内閣府特命担当大臣（規制改革）行政改革担当・構造改革特区・地域再生担当

中馬弘毅 大阪

（小選挙区）

鉢呂吉雄 北海道

佐々木隆博

金田誠一

土井 亨 宮城

秋葉賢也

亀岡偉民 福島

吉野正芳

小淵優子 群馬

森 英介 千葉

保坂 武山 梨

稲葉大和 新潟

菊田真紀子 新潟

稲田朋美 福井

高木 毅

棚橋泰文 岐阜

武藤容治

鈴木克昌 愛知

谷 公一 兵庫

河本三郎

高市早苗 奈良

田野瀬良太郎

石破 茂鳥 取

赤澤亮正

河井克行 広島

福田良彦 山口

山口俊一 徳島

木村義雄 香川

中谷 元高 知

山本有二

西川京子 福岡

福岡資麿 佐賀

園田博之 熊本

岩屋 毅 大分

徳田 毅 鹿児島

森山 裕

嘉数知賢 沖縄

（比例）

逢坂誠二 北海道

飯島夕雁

渡部 篤 東北

近藤洋介

高鳥修一 北陸信越

杉田元司 東海

土井真樹

森本哲生

大口善徳

清水鴻一郎 近畿

井澤京子

藤井勇治

（参議院議員）

（三九名）

伊達忠一 北海道

中川義雄

山崎 力 青森

主濱 了 岩手

岸 宏一 山形

岩城光英 福島

佐藤雄平

狩野 安茨 城

国井正幸 栃木

倉田寛之 千葉

小泉昭男 神奈川

河合常則 富山

野上浩太郎

岡田直樹 石川

吉田博美 長野

大野つや子 岐阜

竹山 裕 静岡

山下英利 滋賀

北神圭朗 近畿

吉井英勝

阿部俊子 中国

亀井久興

岡本芳郎 四国

西本勝子

石田祝稔

佐藤 錬 九州

重野安正

二之湯 智 京都

世耕弘成 和歌山

田村耕太郎 鳥取

常田享詳

岸 信夫 山口

北岡秀二 徳島

真鍋賢二 香川

山内俊夫

山本順三 愛媛

田村公平 高知

広田 一

吉村剛太郎 福岡

陣内孝雄 佐賀

後藤博子 大分

加治屋義人 鹿児島

野村哲郎

紙 智子 比例

西岡武夫

西島英利

森元つねお

吉川春子

津島雄二 青森

大島理森

木村太郎

鈴木俊一 岩手

西村明宏 宮城

御法川信英 秋田

渡部恒三 福島

額賀福志郎 茨城

葉梨康弘

梶山弘志

丹羽雄哉

中村喜四郎

森山眞弓 栃木

渡辺喜美

佐藤 勉

佐田玄一郎 群馬

笹川 堯

谷津義男

福田康夫

柴山昌彦 埼玉

大野松茂

山口泰明

三ツ林隆志

山中燁子 千葉

井上信治 東京

近藤基彦 新潟

宮腰光寛 富山

町村信孝 北海道

鳩山由紀夫

中川昭一

小坂憲次 長野

後藤茂之

宮下一郎

金子一義 岐阜

古屋圭司

塩谷 立 静岡

木村隆秀 愛知

海部俊樹

江崎鐵磨

杉浦正健

古本伸一郎

田村憲久 三重

三ツ矢憲生

岩永峯一 滋賀

中川泰宏 京都

松浪健太 大阪

平野博文

竹本直一

井上喜一 兵庫

西村康稔

戸井田徹

奥野信亮 奈良

二階俊博 和歌山

竹下 巨 島根

平沼赳夫 岡山

村田吉隆

岸田文雄 広島

中川秀直

寺田 稔

代理出席者

（衆議院議員）

（一一一名）

（小選挙区）

（小選挙区）



衆参両院議員が多数臨席



内閣府特命担当大臣<規制改革>行政改革担当・構造改革特区・地域再生担当 中馬 弘毅氏

後藤 斎	長崎幸太郎	高山智司	中森心くよ	玉澤徳一郎	坂本剛二	松木けんこう	(比 例)	保岡興治	中山成彬	衛藤征士郎	金子恭之	松岡利勝	野田 毅	北村誠吾	谷川 弥一	久間章生	保利耕輔	今村雅弘	武田良太	三原朝彦	麻生太郎	渡辺具能	福井 照高	山本公一	塩崎恭久	大野功統	平井卓也	宮沢洋一
阿部正俊	金田勝年	市川一朗	愛知治郎	田名部匡省	(参議院議員)	(参議院議員)	古賀一成	安次富修	山本幸三	林田 彪	仲村正治	広津素子	七条 明	橋本 岳	増原義剛	加藤勝信	矢野隆司	宇野 治	井脇ノブ子	平田耕一	糸川正晃	わしお英一郎	笹木竜三	瓦 力	長島忠美	若宮健嗣	土屋正忠	志位和夫
田浦 直長	関谷勝嗣	亀井郁夫	片山虎之助	青木幹雄	景山俊太郎	鶴保庸介	末松信介	前川きよし	白浜一良	谷川秀善	林久美子	芝 博一	高橋千秋	佐藤泰介	浅野勝人	鈴木政二	北沢俊美	山崎正昭	松村龍二	森ゆうこ	中島真人	小林 温	椎名一保	西田まこと	関口昌一	矢野哲朗	谷 博之	和田ひろ子
林久美子	橋本聖子	高橋千秋	今泉 昭	犬塚直史	(参議院議員)	寺田 学	津村啓介	下条みつ	川端達夫	小沢鋭仁	大畠章宏	漆原良夫	(衆議院議員)	前田武志	中村博彦	中島啓雄	山東昭子	小野清子	大江康弘	浮島ともし	魚住汎英	市田忠義	小齐平敏	三浦一水	木村 仁	木村 仁	木村 仁	木村 仁

「祝電メッセジ」

宣 言



全国町村会副会長 香川県三木町長

石原 收

全国の町村の多くは、農山漁村地域に在り、国土や自然環境の保全、食料の安定供給、水資源の涵養、労働力の供給等、重要な役割を果たしてきた。

市町村合併が進み、その数が減少しようとも、町村は依然として農山漁村地域の大きな部分を占めることになり、今後とも、こうした重責を担い続けなければならない。

そのためには、町村が自己決定・自己責任に基づき、多様で個性的な地域づくりを行え

るよう、真の地方分権改革を推進し町村自治の確立と町村財政基盤の強化を図っていくことが不可欠である。

我々町村長は、改革の速やかな実現に全力を挙げるとともに相互の連携を一層強固なものとし、住民一人ひとりが、誇りと愛着を持ち、生きがいを実感できる魅力ある町村の実現に向けて邁進することをここに誓う。

以上宣言する。



決 議



決議朗読

行政部会長 宮城県鹿島台町長 鹿野 文永



財政部会長 長崎県鷹島町長 宮本 正則



経済農林部会長 岡山県矢掛町長 山岡 治喜

- 一、町村が自主的・自立的な施策を展開できる地方分権の推進を期する
 - 一、総合的な少子化対策の推進を期する
 - 一、高齢社会に対応した保健福祉施策の推進を期する
 - 一、医療保険制度の一本化を期する
 - 一、農林漁業の振興と魅力あふれる農山漁村の実現を期する
 - 一、食料自給率の向上と食の安全・安心の確保を期する
 - 一、自然災害の復旧に対し万全を期する
 - 一、北朝鮮による拉致事件の早期解決を期する
 - 一、北方領土の早期返還と竹島の領土権の確立を期する
- 以上決議する。

緊急重点決議



緊急重点決議朗読

全国町村会副会長 東京都日の出町長
青木 國太郎

真の地方分権を推進するためには、三位一体の改革を地方六団体が二度にわたって取りまとめた「国庫補助負担金等に関する改革案」に沿って、着実かつ速やかに実現することが、緊要である。

よって政府は、下記事項に十分留意し、改革を実現するよう強く要請する。

記

1. 平成18年度までに、個人住民税所得割の10%比例税率化により、所得税から住民税へ3兆円規模の税源移譲を確実に実施すること。

その際、個々の住民レベルにおいて実質的な増税とならないよう個人所得課税全体で適切な措置を講じること。

2. 税源移譲に当たっては、移譲額が国庫補助負担金廃止に伴い財源措置すべき額に満たない町村については、地方交付税の算定等を通じて確実に財源措置を行うこと。

3. 地方交付税の持つ財源調整・財源保障機能を堅持するとともに、町村の安定的財政運営に必要な総額を必ず確保すること。
以上決議する。

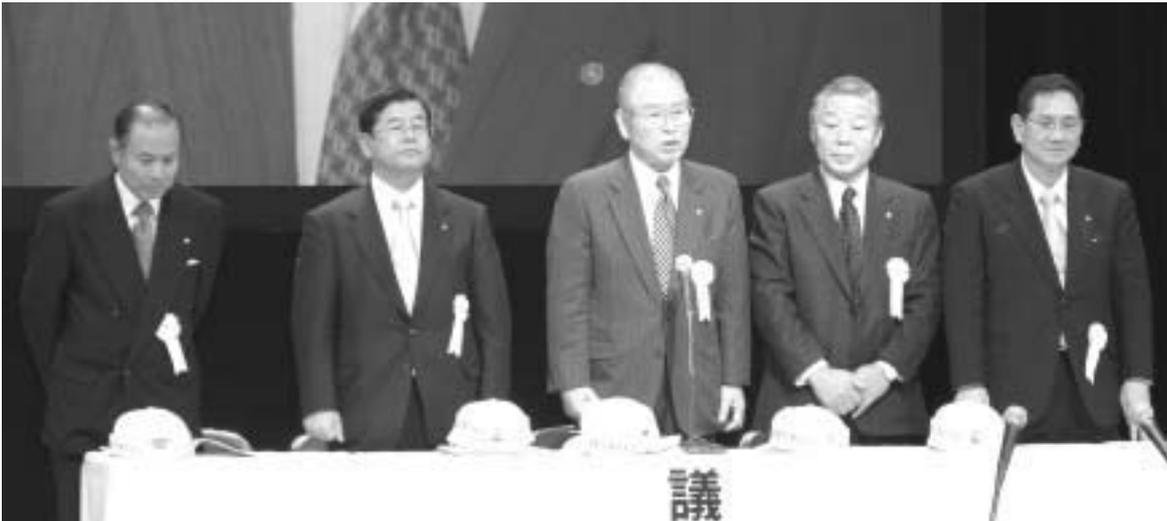


大会司会者

(嘉手納町長、芹澤静岡県会長(函南町長)。

右から小川埼玉県会長(杉戸町長)、宮城沖縄県会長

司



大会議長団

(高浜町長)、服部三重県会長(孤野町長)、本田島根県会長(斐川町長)、白石愛媛県会長(松前町長)。

右から寺島北海道会長(乙部町長)、今井福井県会長

議



閉会のあいさつ

町長。

閉会のあいさつを述べる
魚津副会長(富山県朝日